

修学生の集い開催のご報告

茨城県では、昨年12月26日に初めて「修学生の集い」を開催しました。

修学生の集いは、修学資金を活用している医学生や医師の地域医療に従事することへの不安の解消や連帯感の醸成、県内の先輩医師とのネットワークづくりなどを促進するため、今回初めて企画したものです。

今回の修学生の集いは3部構成で実施しました。

第1部では、修学生医師及び自治医科大学卒後医師（卒後1年目から3年目）による症例発表会を行い、それぞれの参加者から貴重な症例が発表されました。参加者からは、「同年代の発表を見ることで、自分も頑張らなければと思った」、「自分以外の研修医がどのような症例を経験し、どのような発表を行うのか間近で見ることが出来てよかった」などの意見をいただきました。

第2部では、国内及び世界各地で写真展を多数開催する傍ら、テレビや講演に幅広く活躍している写真家の織作峰子さんに、プロとしての仕事の楽しさと厳しさについて講演していただきました。

第3部では、県内各病院の院長先生から修学資金制度を活用している医学生まで、幅広い年代の方々が集まり、コミュニケーションを図ることのできる大変意義のある時間となりました。

茨城県では、今後も年に1度、「修学生の集い」を開催していきたいと考えておりますので、今回参加できなかった皆さんもぜひご参加ください。



症例発表会でのひとコマ



表彰式の様子



懇親会

症例発表会

- ◆「ワーファリン再開直後に急性下肢動脈閉塞をきたした慢性心房細動の一例」
水戸済生会総合病院 鈴木 竜太郎
- ◆「Dr.ヘリで搬送された心不全急性増悪患者を救命した一例」
水戸済生会総合病院 須藤 洋輔
- ◆「ウイルス性胃腸炎により循環血流量減少性ショックを来した1例」
県立中央病院 加藤 夏樹
- ◆「帝王切開後に発症した重症肺血栓塞栓症に対して血栓溶解療法および子宮動脈塞栓術で救命できた一例」
水戸済生会総合病院 星 徹
- ◆「基礎疾患のある患者の胸部レントゲン」
水戸済生会総合病院 萩原 希望
- ◆「発熱を主訴に来院し、肝機能障害、DICを認め消化器内科に入院した1例」
県立中央病院 小田 有哉
- ◆「原因不明の発熱の精査中に血球減少が進行し生前診断に苦慮した一例」
日製ひたちなか総合病院 真船 太一
- ◆「肺癌stageIV（EGFR遺伝子変異陽性）に対してゲフィチニブ投与を行った症例」
筑波大学附属病院 宮田 理沙
- ◆「PPI内服による溶血性貧血」
日製日立総合病院 国府田 尚矢
- ◆「有機リン中毒の治療経過中に広範な腸管壊死と腹部コンパート症候群を発症した一例」
県立中央病院 市毛 博之
- ◆「感冒罹患後、腹痛を契機に劇症1型糖尿病と診断した1例」
北茨城市立総合病院 渡辺 裕介
- ◆「患者を“退院まで”診るということ」
水戸済生会総合病院 稲葉 健介
- ◆「下腿コンパートメント症候群の1例」
県立中央病院 窪木 大悟
- ◆「前置胎盤で大量出血を来した症例」
県立中央病院 大森 知恵
- ◆「糖尿病性ケトアシドーシスで発症した1型糖尿病の2歳女兒」
県立中央病院 田地 広明
- ◆「乳児期早期に発症した女兒痔瘻の3例に対する十全大補湯の使用経験」
総合病院土浦協同病院 秋田 亜紗美
- ◆「胸水貯留にて来院し結核性胸膜炎と診断した1例」
常陸大宮済生会病院 大久保 初美
- ◆「非典型的な画像所見を呈した単純ヘルペス脳炎の1例」
茨城西南医療センター病院 阿久津 善光

「若い時に、一度は地域の救命救急センターを体験してほしい。結果的に自分の力になるのだから」 ～救命救急医からのメッセージ

昨年10月20日に始動した日立総合病院救命救急センターは、救急医療の中でも最も高度な三次救急医療に対応しています。県北地域では初の救命救急センターで、救急医療の中心となって活躍されている集中治療科医長の中村謙介先生にお話を伺いました。

●全国でも屈指のレベルの救命救急センターです。

…日立総合病院救命救急センターの特色は？

非常に優れた救急医療ができる環境が整っています。特に集中治療に関しては、これだけのICUのある病院は全国屈指と言えるレベルです。これまでも当病院では三次救急に対応していましたが、このセンターができたことで、集中治療面でさらに大きくレベルアップしました。設計の面でも救急と集中治療が連携できる環境になっており、救急外来とICU専用のエレベーターがありスムーズに行き来ができます。さらに、救急車が2階の救急外来に直接乗り入れる専用道も設けられています。全国的にもめずらしい、救急と集中治療を両立して行えるということが大きな特色です。

…スタッフはどのような方ですか？

看護師は、各病棟からエキスパートが集まってICUに配属され、開設から4カ月間勉強を積んで今ではかなり高レベルな集中治療を提供できるようになっています。もともと当病院は、臨床工学技士が非常に力のある人材が多く、始動と同時に当直体制を取り、24時間体制で機械のマネジメントをしてくれています。PCPS（経皮的人工心肺）などの非常に

株式会社日立製作所 日立総合病院救命救急センター
集中治療科 医長 中村謙介



素早い準備も24時間対応です。また、薬剤師も常駐してくれており、病院を挙げてICUと救命センター運営を応援してくれています。

●地域の救命センターの立ち上げに携わってみたいと思った。

…先生が救急医になられたきっかけは？

東京大学の医学部を卒業後、大学の附属病院で皮膚科医をしていました。当時は、スーパーローテーション世代ではなく入局世代なんです。皮膚科医になったのは、疾患が多岐にわたる科だと思ったからです。その研修課程で、SLEという病気の急性増悪で、重症の方を受け持ってICUに移す機会があったのです。その頃の自分では、とてもその患者さんの治療を一人でするものではなかった。その時、ICUのドクター

たちが非常にスキルフルに治療をし、生命状態の立ち上げをうまくやって、全身管理をしているのを見て感銘を受けました。ICUの環境もそれまで見たことがなかったし、整った治療環境は普通の病棟とは違うものなので、こういう世界があるんだと知り、もっと勉強をしなければと思いました。

そこで、東京大学附属病院の救急集中治療部で勉強を始め、山口大介先生（現国立がんセンター副科長）に出会いました。循環を重視する集中治療をする先生で、その教えにインスピレーションを受け、この世界でやっていこうと決めたのが救急医として働くきっかけです。今の自分があるのは、山口先生の教えがあるからです。

…日立総合病院救命救急センターに赴任されたいきさつは？

救急医として働くにあたっては、一度は地域の救命センターに出て修練を積む必要があります。僕は、福島県郡山にある太田西ノ内病院に勤務しました。郡山市内だけでなく、福島県全体の救急を担う救命センターでした。救命センターを立ち上げたセンター長の篠原一彰先生の生き様が非常に素晴らしいもので、そこで勉強する過程で自分も地域の救命センターの立ち上げに携わってみたいとその頃から思っていました。東京大学に戻ってさらに臨床・教育・研究をしていましたら、こちらの病院から救急集中治療の力が欲しいと要請があり、赴任することになりました。

●地域医療には若い医師の確保が重要です。

…医師不足の県北地域で救命医療に取り組む意気込みは？

地域の救急医療の一翼を担っていきたくと思っています。

素晴らしい集中治療のできる環境を与えてもらっているのので、患者さんに満足していただける治療ができるように取り組んでいます。今後は、救命救急センターを守っていくためにも若い医師の確保が重要になります。ここに来ればやりがいがあり、勉強もできるという環境を整えていきたいです。それが、自分の役割であると思っています。地域の救命センターでの勉強に加え、大学で学ぶようなアカデミックな勉強もできるようにして、若い医師がたくさん来てくれて活気づくのが最大の目標です。

…若手医師・医学生へメッセージを。

東京など大都市で救命をやっているだけでは、その病院の特色で患者さんが集まりますから、どうしても症例に偏りが出ます。幅広い救急疾患を勉強して経験していくためには、一度は地域の救急救命センターに出るべきだというのが僕の考えです。若い時に、一度はそういう経験を積んでほしい。そういう意味でここはそれができし、アカデミックな環境も整っています。そこに魅力を感じて来てくれることを期待します。



病院紹介コーナー



独立行政法人国立病院機構 水戸医療センター

教育研修部 廣瀬 一郎



当院は、地上8階地下1階で病床数500床を有し、日本病院機能評価機構認定病院・地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院に指定され、救命救急センター及び茨城県ドクターヘリ基地病院として第三次救急医療を担い地域医療に貢献しています。また、国の政策医療に基づき「がん」「循環器」「エイズ医療」等の診療、臨床研究及び研修医・レジデントの教育研修に積極的に取り組んでいます。

国立水戸病院として昭和46年に臨床研修指定病院となり、以来多数の臨床研修医を受け入れてきた実績があります。また、将来の専門性にかかわらず日常診療で頻りに遭遇する疾患や病態に適切に対応することや患者の多様なニーズに対して幅広い知識・応用力と技能を身につけるために、各診療科の指導医などにいつでも相談できる体制を整え、研修科目の選択制と自由度の高い初期臨床研修プログラムを用意していますので、意欲のある研修医には魅力的な病院です。

Relay Essay 研修医リレーエッセイ

筑波大学附属病院
初期臨床研修医 佐藤 雅志



「おはよう！」

研修医部屋で交わされる挨拶から、私たちの一日は始まります。着替えたら病棟へ上がってまずは個人回診。その後上級医の先生方との朝回診に臨みます。終わったらオーダーを出しつつ、徐々に出てくる検査結果を見ながら次の一手を考える。分からなければ、どんどん上の先生に相談です。病棟業務が一段落したら検査に行き、自分も参加する機会を伺います。

そして週1回の教授回診や日々開かれるカンファレンスは、研修医にとって緊張感あふれる場面。一方で、そこは様々な先生方の意見を聞けるチャンスでもあります。時に厳しく指導されることもありますが、まだまだ知識も経験も浅い私たちにとって、その患者さんには何が重要でどのようなプロセスで治療を進めていくべきかを学ぶ場であり、先を見据えた戦略を立ててそれに基づいた診療を行う訓練でもあるのです。この2年間、市中病院と大学病院とでそれぞれ研修を受けてきましたが、外来診療やcommon diseaseが経験できることが市中病院の特色とすれば、大学病院の特色はまさにこの点ではないでしょうか。

間もなく医師として働き始める皆さんには、将来に夢もあれば不安もあると思います。ですがどんな道にも必ず自分の糧となるチャンスはあるはず。皆さんが実りある研修生活を送れるよう応援しています。

■臨床研修病院見学受け入れ状況のご案内

茨城県内の臨床研修病院では、医学生を対象とした病院見学の受け入れを行っています。

	医療機関名	見学時間	対象	宿泊	問い合わせ先
1	水戸赤十字病院	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:企画課 市川 TEL:029-221-5177(内3151) FAX:029-227-0819 e-mail:mito@mito.jrc.or.jp
2	水戸協同病院	平日又は第1、3 土曜日午前	全学年	病院隣にホテルあり (自己負担)	担当者:庶務課 医局秘書 福家 TEL:029-231-2371 FAX:029-221-5137 e-mail:residency@mitokyodo-hp.jp
3	水戸済生会総合病院	随時	全学年	院内施設に宿泊可能(無料)	担当者:総務課 山本 TEL:029-254-5151 FAX:029-254-0502 e-mail:resident@mito-saisei.jp
4	水戸医療センター	随時(平日)	5～6年生	可能(無料) 院内の施設宿泊可能	担当者:教育研修部長 廣瀬一郎 TEL:029-240-7711 FAX:029-240-7788 e-mail:i.hirose.d@mn.hosp.go.jp
5	茨城県立中央病院	随時(平日)	全学年	院内宿泊施設有り。 事前に相談してください。	担当者:管理課 田口 TEL:0296-77-1121(内線2015) FAX:0296-77-2886 e-mail:kensyu@chubyo.in.pref.ibaraki.jp
6	(株)日立製作所日立総合病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:総務グループ 石井 TEL:0294-23-1111(内線4234) FAX:0294-23-8317 e-mail:saiyou.nichibyo.nx@hitachi.com
7	(株)日立製作所ひたちなか総合病院	随時(平日)	4～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:事務局総務係 渡辺 TEL:029-354-6841 FAX:029-354-6842 e-mail:saiyou.nakabyo.op@hitachi.com
8	土浦協同病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:庶務課 木村 TEL:029-823-3111 FAX:029-823-1160 e-mail:general@tkgh.jp
9	霞ヶ浦医療センター	随時(平日)	4～6年生	問い合わせください	担当者:臨床研修担当 TEL:029-822-5050 FAX:029-824-0494 e-mail:3102sy01@kasumi.hosp.go.jp
10	筑波記念病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:臨床研修担当 横田 TEL:029-864-1212 FAX:029-864-8135 e-mail:yokota@tsukuba-kinen.or.jp
11	筑波大学附属病院	随時(平日)	全学年	可能 学内宿泊施設等 料金:2,500円～3,000円	担当者:病院総務部総務課(教育支援) TEL:029-853-3516,3523 FAX:029-853-3687 e-mail:kensyu@un.tsukuba.ac.jp
12	筑波メディカルセンター病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:総務課 谷田部 TEL:029-851-3511 FAX:029-858-2773 e-mail:kensyu@tmch.or.jp
13	筑波学園病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:経営企画室 鈴木 TEL:029-836-1286(内線2340) FAX:029-836-1918 e-mail:kei-kikaku@gakuen-hospital.or.jp
14	東京医科大学茨城医療センター	随時(平日)	全学年	可能(無料)研修医の宿舎に 宿泊可能	担当者:卒後臨床研修センター 飯島 田中 TEL:029-887-1161(内線1490) FAX:029-887-1355 e-mail:ksotsugo@tokyo-med.ac.jp
15	牛久愛和総合病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:人事部 野中宏修 TEL:029-873-3111 FAX:029-874-1031 e-mail:nonaka@jojinkai.com
16	つくばセントラル病院	随時(平日・土)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:経営企画室 久松辰男 TEL:029-872-1771 FAX:029-874-4763 e-mail:tatsuo.hisamatsu@central.or.jp
17	JAとりで総合医療センター	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:前田益孝 TEL:0297-74-5551 FAX:0297-74-2721 e-mail:toride@medical.email.ne.jp
18	総合守谷第一病院	随時(平日)	5～6年生	可能(無料)研修医の宿舎に 宿泊可能	担当者:佐川俊英 TEL:0297-45-5370 FAX:0297-45-5050 e-mail:sagawa@moriya.daiichi.or.jp
19	友愛記念病院	随時(平日・土)	5～6年生	遠方者には宿泊先を提供	担当者:総務課 稲見 TEL:0280-97-3000 FAX:0280-97-3001 e-mail:yuai@yuai-hosp-jp.org
20	茨城西南医療センター病院	随時(平日)	全学年	可能(無料)研修医の宿舎に 宿泊可能(要確認)	担当者:庶務課 西原 TEL:0280-87-8111 FAX:0280-86-7702 e-mail:shomuka@seinan-mch.or.jp

茨城県からのお知らせ

修学生・修学生医師およびi-doctorご登録住所の確認について

いつも「いばらきの地域医療」をご愛読いただき誠にありがとうございます。最近、郵送を希望されている方で、ご登録の住所に送付したところ、返戻されるケースが多くみられます。

お忙しいところ恐縮ですが、勤務先の変更やお引越しの際は、「茨城県地域医療支援センター」（下記）までぜひご連絡ください。i-doctorご登録情報の変更については、地域医療支援センターホームページ内の“i-doctorお申込受付”でも承っております。よろしくお願いたします。

茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内) TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp